

(1) 油津歴史文化遺産活用事業推進会議

- ① 事業の進捗状況の共有、提言をもらう場として、令和6年5月15日設立

(2) まちづくりコーディネーター業務

- ① 公募型プロポーザルにより選定（6月:1次審査、8月:2次審査）
 ② コーディネーター 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所（東京都）
 大野 博堂（おおの はくどう） 氏
 ③ 履行期間 令和6年8月16日～令和11年3月31日

④ まちづくりコーディネーターの活動実績

①R6. 09. 20(金)	打合せ①：今後の進め方、基礎データ収集に
②R6. 10. 04(金)	打合せ②：コーディネータと市の役割、部会の設置について
③R6. 10. 08(金)	打合せ③：設計業者との連携について（設計業者との共同打合せ）
④R6. 10. 18(金)	【子育て世帯向けアンケート実施】
⑤R6. 10. 22(月)	打合せ④：観光アンケート分析結果報告
⑥R6. 11. 01(月)	打合せ⑤：中学生アンケートの実施について（オンライン）
⑦R6. 11. 19(火)	打合せ⑥：子育て世帯向けアンケート分析結果報告
⑧R6. 11. 20(水)	【中学生向けアンケート実施】
⑨R6. 11. 22(金)	打合せ⑦：R7年度予算編成について（オンライン）
⑩R6. 12. 24(火)	打合せ⑧：今後の事業展開について
⑪R7. 01. 10(金)	打合せ⑨：まちあるきイベントについて
⑫R7. 01. 19(日)	油津地域協議会主催 ヘエ～ほお～まちあるきイベント参加 > 地域の方々との意見交換 > 油津地域協議会 細田会長と意見交換
⑬R7. 01. 29(水)	打合せ⑩：中学生アンケート分析結果報告 > 油津推進会議 益田委員長と意見交換
⑭R7. 02. 14(金)	打合せ⑪：2/19推進会議について

(3) 日南市油津別館改修設計業務（歴史資料館の整備）

- ① 公募型プロポーザルにより選定（6月:1次審査、8月:2次審査）
 ② 設計業者 株式会社オンデザインパートナーズ（横浜市）
 ③ 履行期間 令和6年8月20日～令和7年3月31日
 　　　　　（令和7年中旬見込）（繰越予定）
 ④ 活動実績 打合せ9回、地域ニーズ調査（ワークショップ、ヒアリング）

(4) 花峯橋整備事業

- ① 入札により解体業者決定（R7. 1. 31入札／R7. 2. 10契約）
 ② 解体業者 株式会社 中幸組
 ③ 工事期間 令和7年2月12日～令和7年7月1日

(5) 水辺利活用事業

- ① 水質検査の実施
 ② 部会や事業の構成について、コーディネーターと検討

(6) 河野宗泰家整備事業

- ① 耐震・劣化調査の実施

(7) 既存施設利活用事業

- ① 部会や事業の構成について、コーディネーターと検討

(8) 市民活動支援事業

- ① 補助金交付要綱の制定

1 調査の概要

(1) 調査の目的

油津地区が果たしている役割、不足する機能、期待されている機能について分析するため

(2) 調査対象

お子様をお持ちの保護者（市内保育園、幼稚園経由で配布）

(3) 実施期間

令和6年10月16日 ～ 令和6年10月30日

(4) 調査項目

① 属性質問（居住地区、性別、お子様の年齢）

② 油津地区に関する質問（訪問頻度・目的、交通手段、地域の魅力、期待する機能・サービスなど）

③ 油津地区に対する自由意見

(5) 取得サンプル数

475人（配布：約1,200世帯）

※回答率：39.58%

2 結果の概要

(1) 居住地区

「吾田地区」が50%と最も多く、次いで、南郷、飢肥となっている。

調査地区である「油津地区」以外のからの回答がほとんどを占めている。

(2) 年齢

回答者の年齢は「30代」が61%と全体の半数以上を占めている。

図1-1 居住地区について

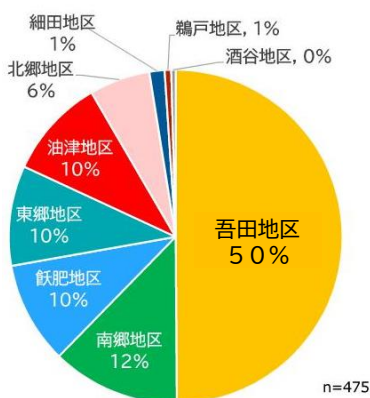
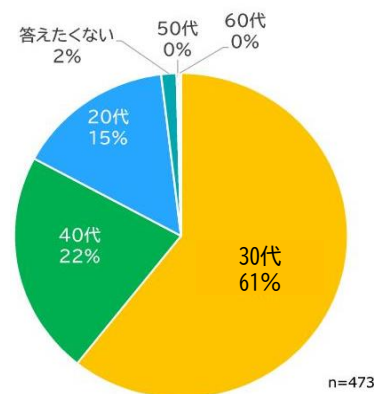


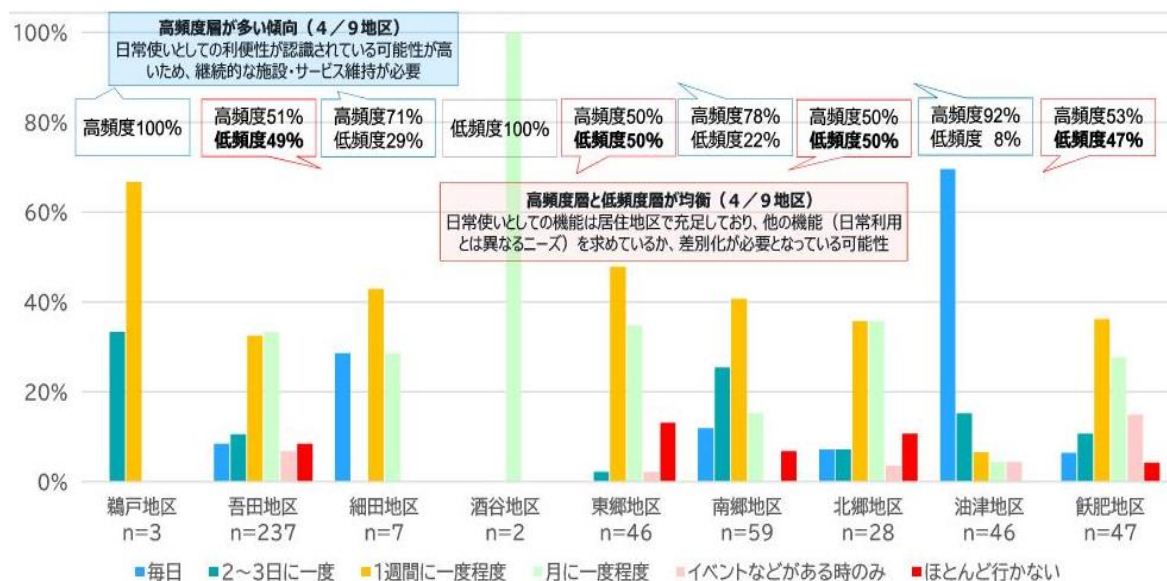
図1-2 年代について



(3) 油津地区への来訪頻度

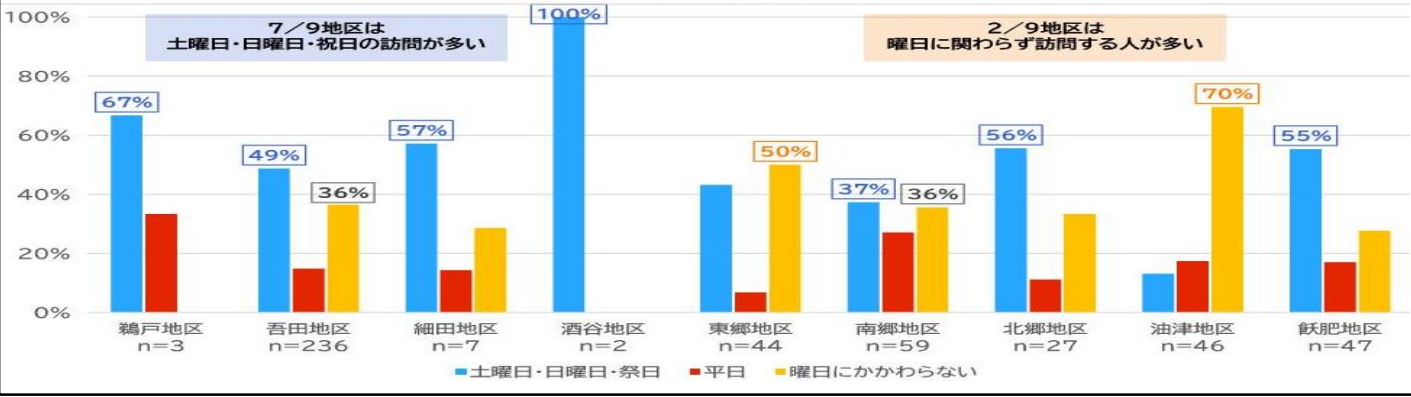
9地区のうち、4地区が高頻度の来訪が多い一方、4地区では高頻度層と低頻度層の割合が均衡しており、地区ごとにバラツキがみられる。

エリアごとに不足している要素に着目することが重要。



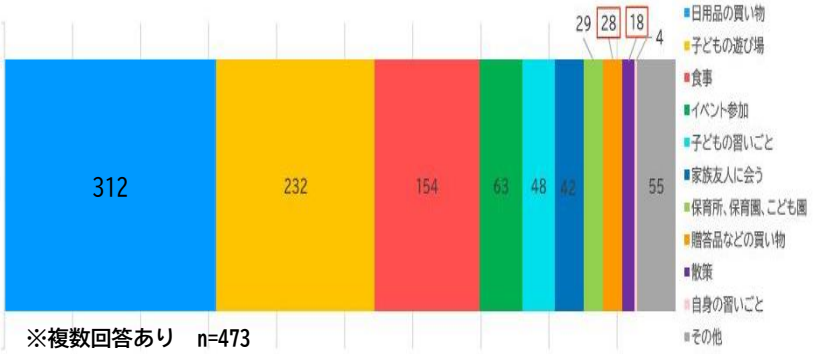
(4) 油津地区への訪問日

7地区の人が、土・日・祭日での訪問が多く、2地区の人が曜日を問わず利用する割合が高い。



(5) 油津地区への来訪目的

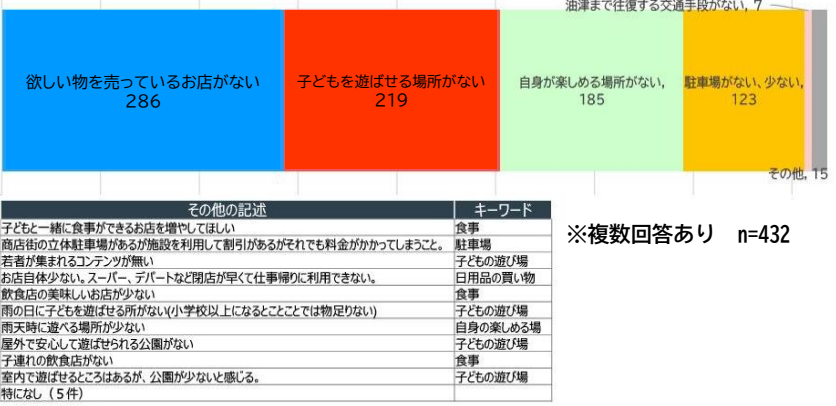
「日用品の買い物」を目的に来訪する方が多く、次いで「子どもの遊び場」「食事」「イベント参加」の順になっている。「贈答品の買い物」や「散策」などは30人以下の回答に留まっており、これらの機能として認知されていない、あるいは、別の地域でニーズを満たしている可能性が高い。



(6) 油津地区来訪への困りごと

訪問目的で「日用品の買い物」「子どもの遊び場」の割合が多かったにも関わらず、困りごととして「欲しいものを売っているお店がない」「子どもを遊ばせる場所がない」「自身が楽しめる場所がない」という回答が多くみられた。

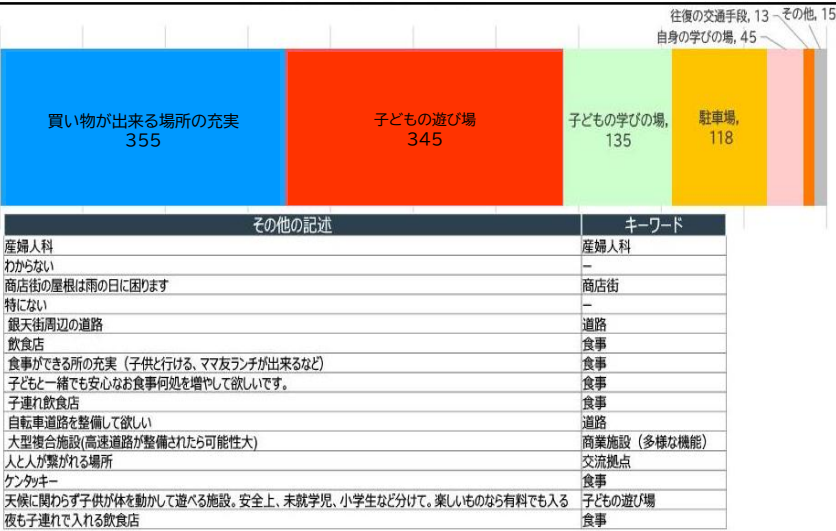
この結果から、来訪者に対する期待に合っていない可能性が高い。またアクセスに関する不満も多くみられた。



(7) 油津地区に整備してほしい施設・機能

今後整備してほしい施設、期待する機能として、「買い物が出来る場所」「子どもの遊び場」が多く挙げられている。

訪問目的と困りごとと同様に回答が多くなっていることから、買い物のできる場所、子どもの遊び場の充実を始めとする他地区との差別化が必要と考えられる。



1 調査の概要

(1) 調査の目的

油津地区が果たしている役割、不足する機能、期待されている機能について分析するため

(2) 調査対象

市立中学校に通う生徒（中学1年生～3年生）

(3) 実施期間

令和6年11月20日 ～ 令和6年12月5日

(4) 調査項目

- ① 属性質問（居住地区、性別、学年）
- ② 油津地区に関する質問（訪問頻度・目的、交通手段、地域の魅力、期待する機能・サービスなど）
- ③ 油津地区に対する自由意見

(5) 取得サンプル数

1,022人（対象：約1,080人）

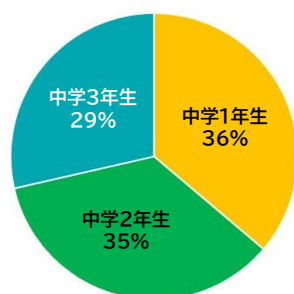
※回答率：94.62%

2 結果の概要

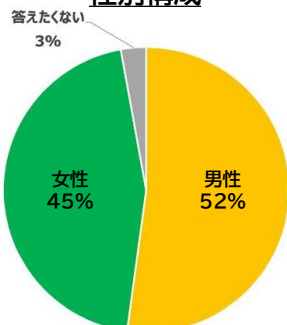
(1) 学年・性別・居住地区

回答者のうち、94%が油津校区以外

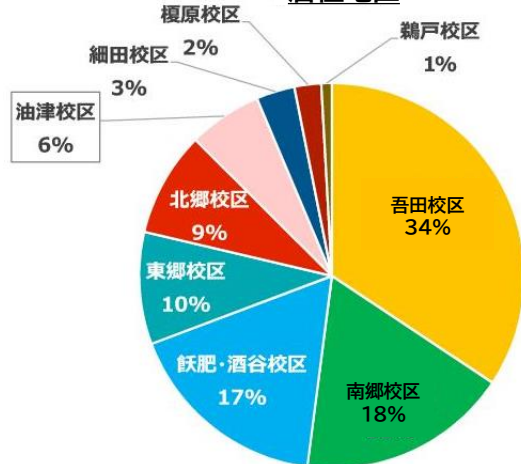
学年構成



性別構成

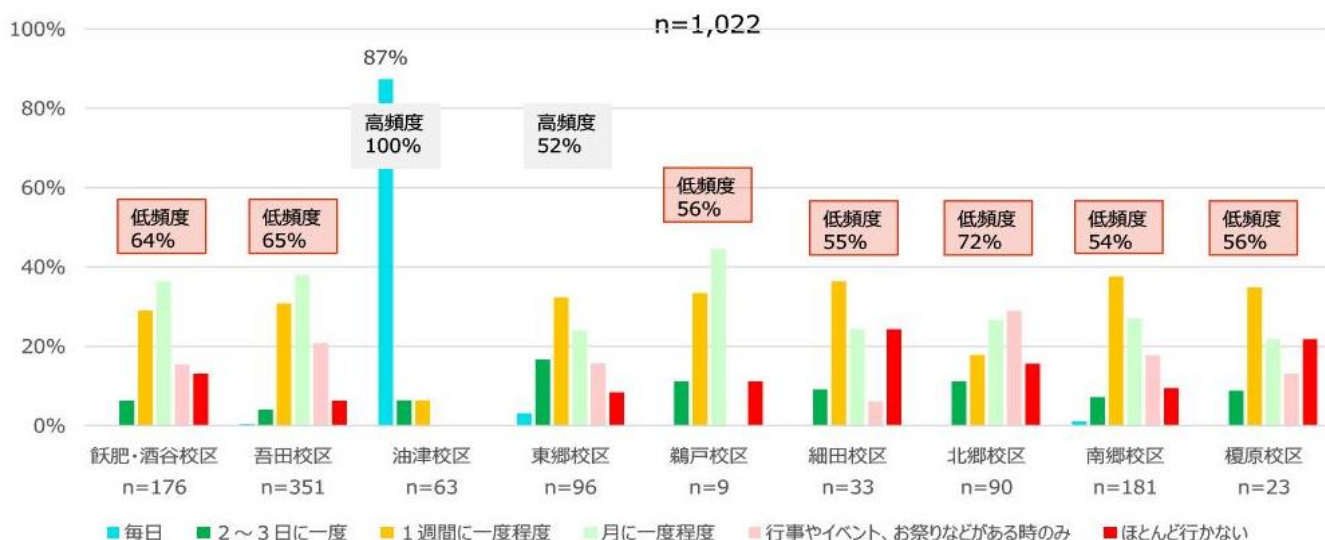


居住地区



(2) 油津地区への来訪頻度

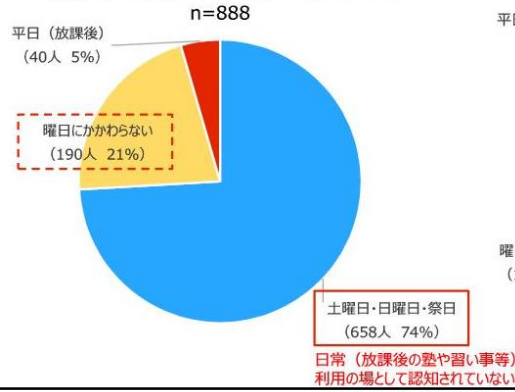
油津地区居住の中学生は他の地区と比べると高頻度で来訪している一方、9地区のうち7地区が来訪頻度が低い結果がみられた。これには、距離やアクセス手段が影響している可能性が高いが、来訪に関する困りごとや期待されている機能を捕捉する必要がある。



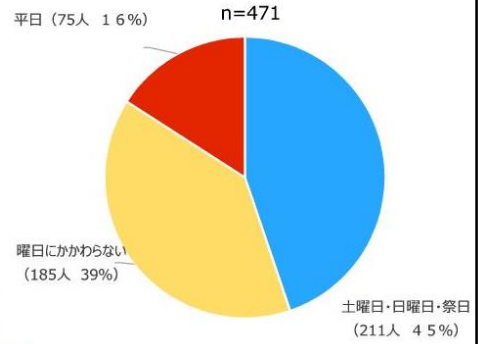
(3) 油津地区への訪問日 (子育て世帯向けアンケートとの比較)

休校日かつ、遠距離の移動がしやすい土日・祝日が74%と大半を占めている一方、曜日に関わらず来訪される人も一定数確認できる。保護者よりも日常利用の場として認知していない傾向がわかる。

【中学生回答】油津地区への来訪日



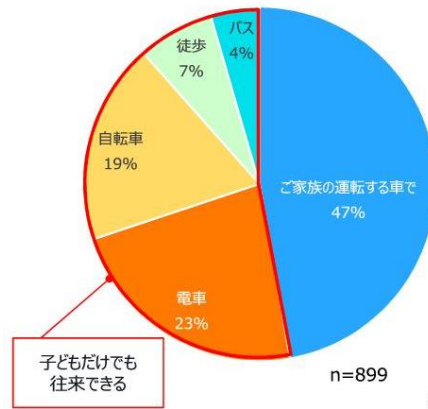
【保護者回答】油津地区への来訪日



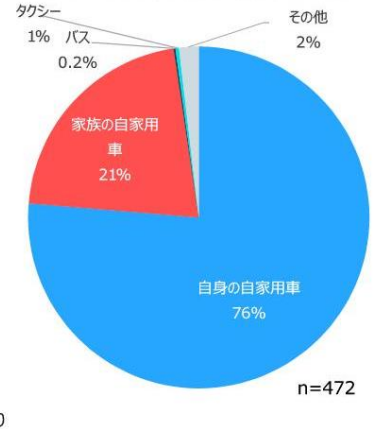
(4) 油津地区への交通手段 (子育て世帯向けアンケートとの比較)

中学生の油津往訪の手段は「家族の運転する車」が最多であるが、交通手段として保護者の同伴が不要な手段（「電車」「自転車」「徒歩」「バス」）が53%に上る。この結果から、家族同伴以外にも、友人や一人で来訪しているであろう学生が一定数確認できる。

【中学生回答】交通手段※

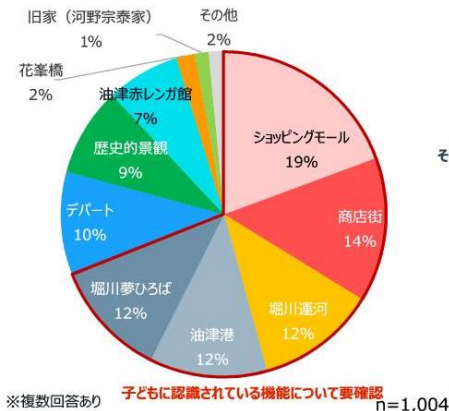


【保護者回答】油津地区への交通手段※



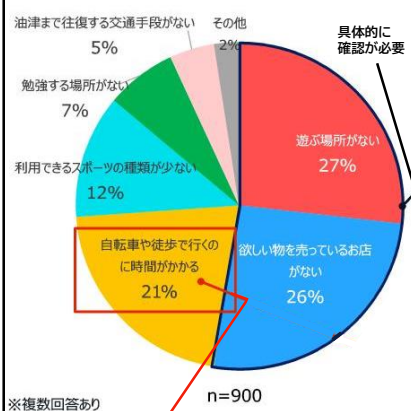
(5) 油津地区の魅力

主に遊びが中心となっている中学生において「ショッピングモール」、「商店街」が多く、次いで上位である「油津港」や「堀川運河」等について、これらが遊びの場として認知されているか、どのように利用しているのか等子どもにとっての機能をワークショップ等で追加で確認する必要がある。



(6) 油津地区来訪への困りごと

「遊ぶ場所がない」「買い物するお店がない」が上位に来ており、各ワークショップ等で具体的な機能を確認する必要。他方、移動に時間がかかるなどの回答も多く見られた。これは、来訪の動機はあるが、移動時間が障壁となっている可能性がある。



(7) 油津地区に整備してほしい施設・機能

ニーズとして、遊び場や欲しいものが買えるお店の整備であると確認できる。魅力にも上位で上がっていることから、ニーズを備え、他地区と差別化された施設やサービスとして整備し、その機能を広く認知してもらう必要があるのではないかと。



- 設計受託事業者 株式会社オンデザインパートナーズ（横浜市）
- 契約日 令和6年8月19日
（工期 令和6年8月20日～令和7年3月31日（繰越予定））

【設計打ち合わせに係るポイント】

1 地震（8月8日）による影響

- (1) プロポーザル終了後の地震により生じた、油津別館外壁の欠損やクラック等の状況について、施設の再調査を実施
- (2) 当初想定していた契約仕様に、外壁の全取替等の内容を追加
- (3) 契約仕様変更等に伴い、工期延伸を見込む



2 設計にあたっての受託条件（特記事項）を整理

本設計にあたっては、寄附者の意向である「油津地区の歴史や文化の継承」が核となるものとして、以下に示す事項を取り入れることを必須とした。

- ・市内の児童、生徒をはじめとする市民に対しても油津の歴史文化遺産を伝承できるもの
- ・UMK報道部川床氏の管理する今昔写真等の展示
- ・昔の道具（餌肥林業、漁業）、チョロ船、弁甲筏等の模型等による再現及び展示
- ・油津繁栄にあたって、堀川運河が担ってきた役割（構成）や餌肥杉材で潤ってきた歴史の紹介

～取組の実績等～

油津別館設計業務	
○R6.08.08(木)プロポーザル二次審査/R6.08.19(月)設計業務委託契約締結	
①R6.09.05(木)	打合せ①：事務手続き、工程、審査会意見（資料館）について
②R6.09.24(火)～25(水)	【市民ワークショップ（事業者独自の取組）】
③R6.09.25(水)～27(木)	【有識者等ヒアリング】
※R6.09.20(金)～10.02(水) 油津別館外壁緊急修繕（外壁欠損及びクラック箇所補修）	
④R6.09.27(金)	打合せ②：展示物について
⑤R6.10.08(金)	共同打合せ①：コーディネータの連携について
⑥R6.10.18(金)	打合せ③：市民等の意見集約について
⑦R6.10.29(火)	打合せ④：展示物、執務室レイアウトについて
⑧R6.11.27(水)	打合せ⑤：R7年度予算編成に向けた概算事業費について①
⑨R6.12.12(木)	打合せ⑥：R7年度予算編成に向けた概算事業費について②
⑩R7.01.17(金)	打合せ⑦：展示設計について
⑪R7.02.05(水)	打合せ⑧：基本設計について

(仮称) 油津歴史資料館整備の基本方針

油津の過去～現在～未来をつなぐ歴史資料館



〈建築計画〉

本計画では、現在油津の観光案内所や観光課の庁舎として利用されている施設を、まちのガイダンス機能を備えた歴史資料館としてリノベーションします。改修にあたっては、既存建物の長所を活かしながら、油津を語る上では欠かせない鉄肥杉材を適材適所に用い、油津の過去～現在～未来を発信するまちの中心拠点を目指して整備します。

1階には本施設の核となる歴史資料館を中心に、まちのガイダンス機能を持ったエントランス空間、2階には庁舎オフィス機能と交流のためのフレキシブルなオープンスペースをゾーニングします。鉄骨造で柱スパンや階高が大きい既存建物の長所を活かし、グリッドに捉われないゆったりとした特徴ある展示空間や様々な使い勝手に応じた自由度の高い空間を実現します。

また、地震や老朽化で傷んだ外装の全面リニューアルや、エレベーターの更新、トイレなどのバリアフリー整備も同時に行い、利便性や機能性の向上を図ることで施設の価値をより高める計画とします。

・1階 歴史資料館の展示空間を平面の中心に据え、その外周スペースはエントランスやロビーを兼ねた共用スペースとして、国道側～堀川運河～夢見広場をつなげる一体空間として整備します。展示空間と共用スペースの境界の緩やかな曲面壁による空間構成は、国道側から夢見広場側まで連続し、建物の表裏なく人の行き来を促すことで、まちの回遊性も高めます。

曲面壁の共用スペース側にはミュージアムカフェ・ショップなどを組み込みアメニティを高めると同時に、受付カウンターやまちの情報マップなども設け、ガイダンス機能も併せ持った計画とします。日常的に市民がくつろげ、クルーズ船客の受入場所としての機能も考慮したスペースとします。

また、曲面壁の展示空間側は、曲面に沿って波紋を想起させる平面構成とし、特色ある展示空間のなかで、油津の歴史・文化を落ち着いて鑑賞できるスペースとして整備します。

・2階 大きく平面を2分し、夢見広場側に庁舎オフィス機能、国道側に誰もが自由に利用できる共用空間をゾーニングします。国道側の共用空間は1階の共用スペースから階段、エレベーターで誰もが容易にアクセスできる場所とします。アンフィシアター状の什器を設け、歴史資料館のレクチャールームやイベント利用などにも対応できる空間として整備します。

また、十分なスペースを確保することで、修学旅行生やクルーズ船客の一時待機場所としても活用可能です。堀川橋まで見通せる運河ビューを活かしながら、日常的に市民のリビングとして利用できるよう、小上がりスペースの設置など親子連れの利用などにも配慮します。さらに、夢見橋の復元モックアップ模型やプロ野球球団キャンプ地としての記念品なども2階にコーナを設けるなどして有効活用を図ります。

○外構計画について

国道側からのメインアクセスに対して鉄肥杉を用いた連続庇を整備し、歴史資料館としての新たな顔を作ります。庇下は日差しを避けてまち歩き中の休憩や車待ちができるスペースとして整備します。既存の駐車場スペースをベースに、身障者専用駐車スペースの確保や段差のないアプローチなどバリアフリー化に最大限配慮した計画とします。さらに敷地内での大型バスの転回も今後検討を進めます。

夢見広場側は、現在、広場と既存建物1階に約2mの段差がありますが、広場側に建物幅に合わせた階段状デッキを設け、歴史資料館と広場の連続性や相互利用を高めるための整備を計画します。広場に面した階段状の居場所は、クルーズ船客が集中した際の緩衝帯として機能し、さらには広場でのイベントやマルシェの際には客席として有効利用が可能です。広場側での築造に関して、今後、広場所有・管理者との協議を進めていきます。

○建物機能・性能向上のための主な改修・更新メニュー

- ・地震、老朽化で傷んだ外壁の全面改修
- ・上記に伴う外部建具の全面改修
- ・屋根、屋上の防水改修
- ・外壁、屋根の断熱改修
- ・エレベーターの入替改修（現状は運転不能）
- ・改修後の用途に合わせた設備の全面改修（現状は長期未使用部分があり、老朽化が著しい）
- ・トレイや子育て諸室などのバリアフリー整備

○工事費について

昨今の建設物価の上昇に加え、令和6年8月に発生した日向灘地震による被害を受け、外壁の全面改修などプロポーザル時点では想定し得なかった改修項目が必要となり、当初の工事費予算内での整備が難しい状況にあります。

公共施設整備として、コスト縮減が命題である一方で、歴史資料館を今後数十年にわたって魅了ある施設として活用・運用を図り、次世代に油津の歴史・文化を継承していくためには、今回の改修工事で適正なコストを投じてしっかりと整備する必要があると考えます。今後の事業推進において、必要な整備内容と適正な予算措置の議論が望まれます。



鉄肥杉庇による 訪れる人を迎え入れるエントランス空間

過去から現在へと波紋状に広がる展示計画

海と山の豊かな資源を持ち、堀川運河によって発展してきた油津の文化と歴史は、後世に伝えるべき油津の価値です。その価値が刻々と見えにくくなってきている現在、油津の人々と油津の外から来る人々に町がどう発展したかを伝え、まちの今とこれからをみんなで想像するための展示計画を目指します。主に3つの柱で展示空間を計画します。

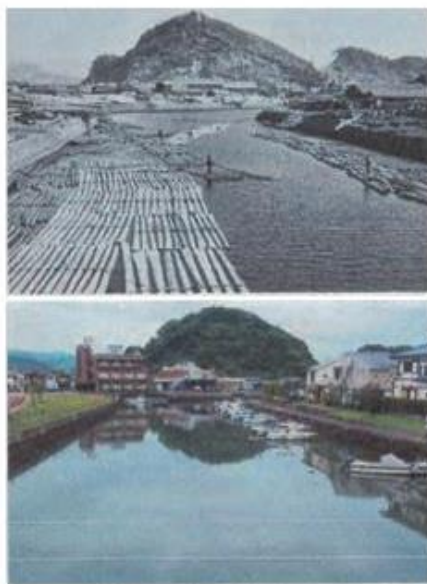
①油津のまちをかたちづくってきた海(漁業・港)と山(林業・鉄肥杉)、両者を結びつける堀川運河を中心とし、そこから外側(現在の油津)へ波紋状に広がっていく展示ゾーニング

展示空間とエントランスの境界にはガイダンスウォール、展示空間の中心には漁業・港と鉄肥杉、それらと密接に影響しながら油津の発展に貢献してきた堀川運河を中心に周囲を今昔写真が取り巻くようなゾーニングとします。



②川床氏の今昔写真などを活用し、油津の過去と現在を往来する展示体験

今油津に住む・訪れる人たちが、昔の油津に思いを馳せることができる、小中学生・高校生の若い人たちは見ることができない生業やまちの姿を想像する。昔の油津を知っている大人たちは、ここはこんな景色だったなど、当時のまちを懐かしむ。そして、展示を体験した人びとはこれからの油津をつくっていく！人かもしれない。今と昔を知ることが、これからの油津を考えるためのヒントになる。今昔写真には重要な役割があると考えます。



川床氏今昔写真 堀川運河

③油津の次代を担う若者や子どもたちが、まちの未来に関わっていくための意識と機会を育む展示手法

子どもたちがまちの歴史を身近に知れる環境であることは、ガイダンスセンターの大きな役割の1つになります。地元で長く住んできたシニア世代が子どもたちに油津の歴史や文化を教える機会を設けてみたり、年齢に合わせた展示鑑賞や体験のためのツールを制作し、子どもたちが楽しく学ぶことができる展示手法を採用します。



国立歴史民俗博物館「寺子屋 れきはく」
<https://www.rekihaku.ac.jp/kids/outline/others/index.html>

令和7年度油津地区における市民団体活動支援事業（案）

1 補助制度の概要

油津まちづくり事業を官民一体となって進め、まちの賑わい創出による地域活力の向上を図るため、市民団体等が行う、まちの賑わい創出に寄与するイベント等に対し補助金を交付

(1) 補助対象者（要綱第2条）

① 市民団体（以下の要件を満たすもの） ア 5人以上の構成員を有し、構成員の5割以上が市民であること。 イ 市内に事務所又は活動拠点を置き、市内で活動していること。 ウ 団体運営に関する規約、会則等を定めていること。
② その他市長が認めた者

(2) 補助対象事業と補助上限（要綱第3条、第4条）

まちづくり計画の目標達成に資するイベント等で、かつ、まちの賑わい創出による地域活力の向上に資すると認められる事業であって、令和8年2月20日までに完了するもの。

<具体的例>

補助対象事業	補助上限
誘客によるまちの賑わい創出、地域コミュニティ機能の強化、地域住民と観光客等の交流の促進等を目的としたイベント （水質美化啓発活動、イベントの開催、新たな価値を生み出す活動（文化施設内でのアート展示等）など）	20万円以内／件
地域全体でまちづくりの機運醸成を図るために開催する、市民活動等の事例発表を目的とした市民フォーラム （実行委員会を立ち上げて実施するまちづくりフォーラムなど）	200万円以内／件

※ 補助上限かつ予算の範囲内で、補助対象経費の10／10を補助。

※ 補助金の交付は、制限はないが、応募多数の場合は、未実施者を優先することもある。

(3) 補助対象経費（第4条別表）

報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、広告料、デザイン料、委託料、使用料及び賃借料、手数料

(4) 審査方法

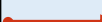
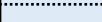
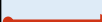
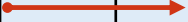
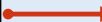
申請書類を未来創生課で確認し、決定

2 スケジュール

令和7年4月～12月 募集期間（予算に達し次第終了）

随時 交付対象者決定及び通知

令和8年5月 油津歴史文化遺産活用事業推進会議へ報告

	事業名		事業項目	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
1	ガイダンスセンター整備事業	ガイダンスセンター整備	実施設計		R6年度3月補正で繰越上程			
			改修工事			設計後入札準備		
		資料・備品等展示	資料・備品等の購入、整備					
			観光PR					
		観光PR	観光PR戦略の検討					
			HPの開設・パンフレット作成等					
2	水辺利活用事業	花峯橋の整備	解体工事、地盤・部材調査等		R6年度12月補正で繰越設定			
			実施設計			解体後入札準備		
			復原工事					
			保存活用計画策定					
			有識者会議の設置					
		体験創出等	体験メニュー検討、創設					
			事前調査（水質検査）					
		専門家派遣	コーディネーター委託					
		周遊促進等	周遊促進検討					
			工事（案内サイン等）					
3	河野宗泰家整備事業	主屋の整備	施設耐震・劣化調査、利活用検討					
			設計業務					
			改修工事					
			保存活用計画策定					
		庭園の整備	設計業務					
			改修工事					
		赤レンガ館の活用	利活用の検討			 （改修の場合）		
4	空き家活用事業	運営体制の構築	運営体制検討会の設置					
			運営体制の構築委託					
			市補助金の検討・交付					
5	市民協働によるまちづくり	市民活動支援事業	補助金交付要綱の作成					
			補助金交付					
		まちづくり検討会の実施	推進会議での検討					
			市民フォーラムの開催					